

(一般情報)

GPS田植機でラクラク農作業

～運転アシスト装置で誰もが取り組みやすいスマート農業を目指す～

香取農業事務所改良普及課 平成30年4月11日発

早場米の産地として知られる東庄町の水稻農家で、4月3日、県育成品種「ふさおとめ」の田植えが始まりました。規模拡大に伴い、家族の誰でも田植えができるように、今年からGPSを活用した運転アシスト装置付き田植機を導入しました。当日は近隣農家、町役場、農協、機械メーカー及び肥料会社など約20名が作業を見学に訪れました。

今回導入した田植機は、直進時に自動操舵で運転をアシストする機能を備えており、田植えに不慣れな若手農業者の技術補完や熟練農業者でも作業負担の軽減が期待されます。作業した農家からは「風が吹いて田面のマーカーが見えない時でも真っすぐに植えることができる」「運転時にも植え付けた苗の状態や肥料の減り具合を確認できるようになった」など作業上のメリットが挙げられました。

農業事務所では、今後も水稻農家の省力化に向けて情報提供と支援を行っていきます。



手を放しても自動操舵で真っすぐ



一直線に植えられた苗の様子